

事故事例に学ぶ... 2

--「安全確認をせずに車線変更をする。」-- この行為が他の車にどれだけ迷惑を及し、時に重大な事態を招くかは容易に想像がつくはずですが。しかし無意識に車線を変更しているドライバーが多いのが現実です。

今回は、車線変更の基本を怠ったがために事故に至った事例を紹介します。

車線変更時における後続車との接触事故

事故の概要

発生状況

日 時:平成9年9月某日 午前10時15分頃

天 候:晴れ

発生場所:神奈川県下の国道

道路状況:片側3車線の道路。現状付近は直線が続き、見通しは極めて良好。事故現場より進行方向約1.5km先に交差点があり、交通量は比較的多い。

事故の当事者

A(大型トラック運転):年齢40歳・男性・運転歴21年・事故歴なし

B(大型トラック運転):年齢37歳・男性・運転歴16年・事故歴なし

被害状況

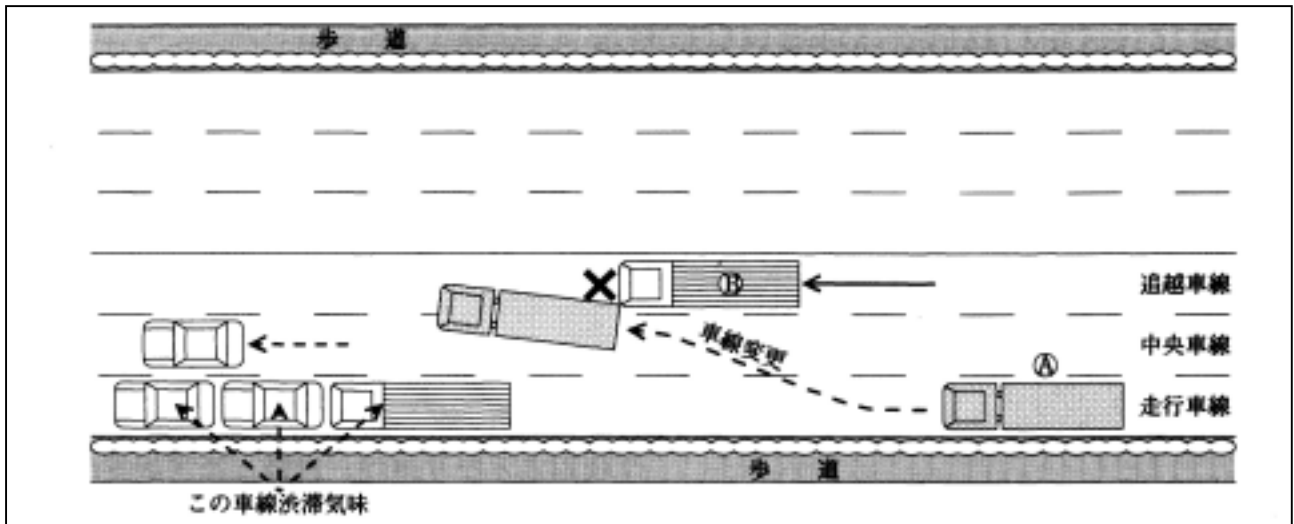
A:人身なし・物損(右後部大破)

B:人身なし・物損(フロント・左ドア破損)

事 故 状 況

3車線道路左側の走行車線を走行中のAは、目的地に向かうためには約1.5km先の交差点を右折しなければならないこと、予定時間より約1時間も遅れていたこともあり、前方が渋滞気味であったので、比較的スムーズに流れている中央及び追越車線側を見て、走行車線から追越車線まで一気に車線変更を行い、後方から走行してきた大型トラックBと接触した。





事故の原因と防止策

無謀な車線変更はしない

この事故は、Aが走行車線から追越車線まで一気に2車線変更するという無謀な運転に起因しています。どのような状況でも、車線変更をする前には周囲の交通状況に対して十分に注意を払わなければなりません。

この事例のように先を急いでいる場合、ドライバーは前方の車ばかりに気をとられがちとなり、後方の確認を怠りやすくなるので細心の注意が必要です。ルールやマナーを無視した無謀な車線変更は絶対に慎んでください。

また、少しでも渋滞してくると、しきりに車線変更をする車をよく見かけますが、これでは事故が起きない方が不思議であり、車線が引かれている意味をなしません。

車線は、車の流れ、あるいは交通秩序を正しく保ちながら効率的なスピードと安全を確保するために引かれているものであり、すべてのドライバーがそれを守ることによって初めて安全な車の流れが実現できます。たった一人の無謀なドライバーの存在が、秩序を乱し事故の要因を作る原因となることを忘れてはなりません。

車線変更は自分自身の目で安全確認

事故を起こしたドライバーに、「ミラーを見ましたか？」と質問すると、ほとんどのドライバーが「見た」と答えます。しかし、「ミラーの中のどの位置に、どの位の大きさの映像を見ましたか？」と質問すると、答えられないドライバーがほとんどです。

ミラーには、例え車両が映っていても、それだけでは距離などの判断がつきにくいという特徴があるからです。また、車体が車線に対して斜めになっていれば、当然斜め後方しか見ることができず、追越車線の車両の状況を正しく把握することはできません。

従って車線変更をする場合、自分の目で直接安全確認することを第一に、ミラーは二次的にと考え、一度は後続車はいないと確認しても、行動を起こす直前に再度確認すること。これが安全運転の鉄則です。

変更する先の車線の流れを乱さない

車線変更は、変更先の後続車の進路を妨害する結果を招きやすいものです。後続車が慌てて急ブレーキを踏んだり急ハンドルを切らなければならない状態を作らないためにも、自分自身の目とミラーを使って、変更しようとする車線の後方の状況を十分に確かめてから行動することが大切です。